



オーウェンスコーニング
ファイバーグラスシングル材

Oakridge PRO

オークリッジプロ

施工マニュアル

オークリッジプロ30
スーパー *Sup*

クラシック *CLASSIC*



目次

	ページ
■ ■ 安全上の注意	2
■ ■ 免責事項	2
■ ■ 性能基準	3
■ ■ 製品仕様・構造	3
■ ■ 設計・施工時の注意事項	3
■ ■ 製品説明	4
■ ■ 製品説明 現場調達品	6
標準施工編〈施工手順〉	7
1 野地板の確認	8
2 軒先唐草の取り付け	8
3 下葺き材の施工	9
4 けらば部の施工	10
5 スターターの加工及び施工	11
6 シングル本体の施工	12
シングルの割り付け	13
7 隅棟部、棟部の施工	14
棟板金使用	14
同質棟(ヒップ&リッジ)使用の場合	16
同質棟(本体)使用 オークリッジプロクラシックの場合	16
8 谷部の納めと施工	17
同質谷(シングル本体で施工)	17
谷板(鋼板仕上げ)	18
9 壁取り合い部の施工	19
平行壁の施工	19
流れ壁の施工	19
10 換気棟の種類と施工	20
換気棟 鋼板製	20
形状寸法	20
施工方法	20
換気棟 (リッジロール)	22
■ ■ 各部納まり	23
■ ■ 耐風基準	25
■ ■ 積雪地域	25

■ 安全上の注意

- 高所、強風地域では屋根材が飛散して二次災害を起こすおそれがあります。屋根材、副資材等が飛散しないような措置をお願いします。
- 雨天、強風、降雪時など悪天候時には施工しないでください。
- 施工の際には、必ずヘルメットを着用し、必要に応じて適切な保護具の着用を行ってください。
- 施工は、必ず施工マニュアルに従った方法で納めてください。施工マニュアルに載っていない納まりについては、事前に必ずご相談ください。
- 製品を地面で引きずったり、製品の上で物を引きずらないようにしてください。
- 屋外保管の場合は防水シートで覆い、濡れないようにして保管してください。
- 雨や露で屋根面が濡れている場合は、施工しないでください。
- 葺きあげた屋根面には、物を置かないでください。
- 野地板上、ルーフィング上に屋根材を置く場合は、滑り落ちないように固定してください。また、固定していない屋根材や副資材の上には、絶対に乗らないようにしてください。
- 屋根上での歩行時は、屋根材に過度な負荷がかからないように注意してください。

■ 免責事項

- 本施工マニュアルに記載された事項以外の設計・施工により不具合が生じた場合。
- 施工業者個人による施工上の瑕疵、或は不正行為、債務不履行による場合。
- 元請けの施工管理が十分になされなかった事による場合。
- 現地調達品等の不具合、或はそれに起因する製品の破損が生じた場合。
- 屋根工事完了後における増改築、補修、或は設備機器や付属品の取り付けにより不具合が生じた場合
- 建物自体の変形や変異等による場合。
- 本製品の施工工事以外の建築施工上の欠陥による場合。
- 苔・藻・カビ等の発生による汚れや変色。
- 保証期間経過後に申し出たもの、または保証期間内でも初期の損傷を適切な連絡を行わず、長期間放置したために生じた拡大損害の場合。
- 天災または地盤・周辺環境・公害などに起因する場合。
- 入居者または管理者等の維持管理不行き届き並びに、故意・過失による場合。
- 特殊環境下における損傷。(特殊ガス・熱・酸・アルカリ・塩類を発生する施設や工場等。)
- 契約当時実用化された技術では予測することが不可能な場合。
- 保証書発行申請書および、施工チェックリストの事実と異なる記載があった場合。

■ 性能基準

商品名：オークリッジプロ30スーパー

一般名称：アスファルトシングル

屋根飛び火試験認定品

番号	用途	仕様	
DR-0831	木製下地	野地 9 mm以上	勾配 0° ~70°
DR-0832	鋼製下地	野地 9 mm以上	
DR-0835	コンクリート下地		

●防火、準防火：22条地区内の木造住宅にも使用可能です。 (*不燃認定は取得していません。)

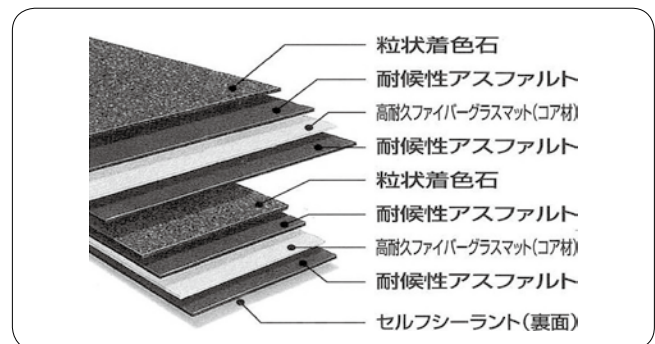
適合規格 (国際規格)		
ICBO ES ER 5443	ASTM D 3018, Type 1	ASTM : American Society of Testing Materials 米国材料試験協会 ICBO : International Conference of building Officials 建材等の性能の証明をする非営利団体 UL : 米国保険業者安全規格
ASTM D 3462	ASTMD D 228	
ASTM E 108, ClassA	UL 790, ClassA	
ASTM D 3161	UL 997	

■ 製品仕様・構造

製品仕様

項目	仕様
本体寸法	幅337mm×長さ984mm
働き寸法	幅143mm×長さ984mm
厚さ	6mm (凹部3mm)
1枚当り重量	1.74kg (28kg/ケース)
坪当り重量	40kg
坪当り枚数	23枚 (㎡当り7枚)
1ケース枚数	16枚

製品構造



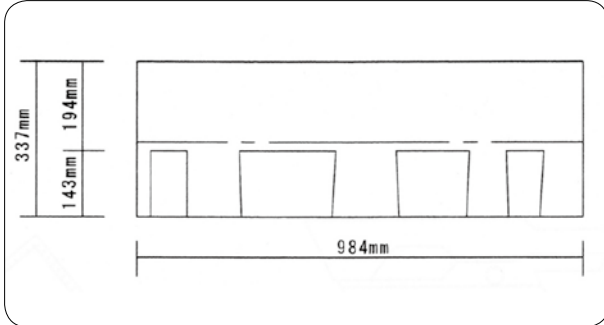
■ 設計・施工時の注意事項

勾配	<ul style="list-style-type: none"> • 屋根勾配は3.5/10寸以上 • 積雪地区、3.5/10寸以下の場合はご相談ください。
小屋裏換気	<ul style="list-style-type: none"> • 住宅金融公庫の基準に基づく小屋裏換気を、必ず行ってください
野地板	<ul style="list-style-type: none"> • 木造・2×4 厚み12mm以上の合板またはOSB • コンクリート 接着工法にて施工
下葺材	<ul style="list-style-type: none"> • 3.5/10寸以上の勾配アスファルトルーフィング#940または同等以上 • 2.5/10~3.5/10未満の場合改質アスファルトルーフィングを使用
釘止	<ul style="list-style-type: none"> • シングル釘 4本/枚使用 (強風地域6本/枚使用)
シングルセメント塗布	<ul style="list-style-type: none"> • 軒先部、けらば部、棟部での施工 • 年間を通して使用してください。

●建築基準法、消防法など施工地域における施工基準に適合した仕様に基づいた設計・施工をお願いします。

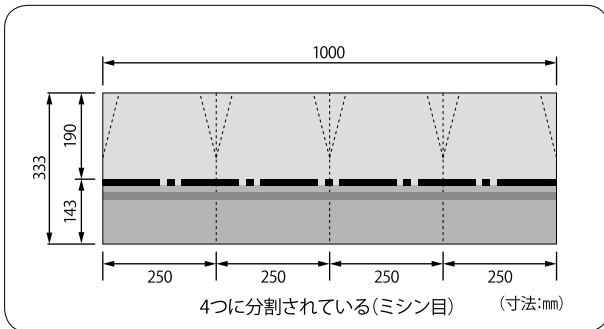
製品説明

■ オークリッジプロ30スーパー



本体サイズ	984mm×337mm	
働きサイズ	984mm×143mm	
重量	28kg /束	1.74kg/枚
厚み	6mm (凸部)	3mm (凹部)
梱包単位	1束=16枚=2.25㎡	
使用枚数	約7枚/㎡	

■ ヒップ&リッジ



本体サイズ	1000mm×333mm	
働きサイズ	250mm×143mm	
梱包単位	1束=16枚=9.2m (64枚)	
使用枚数	約0.57m/枚	

4

■ シングルセメント カートリッジ



容量	330ml	
入数	10本/箱	
使用料	約6㎡/本 (釘打ち工法)	

■ シングルセメント 20kg缶



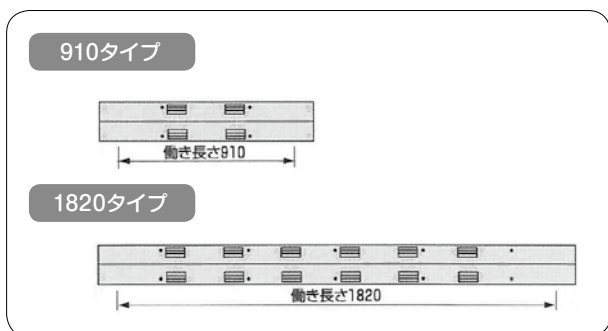
容量	20kg	
入数	1缶	
使用料	1kg/㎡ (接着工法)	

■ 換気棟 (樹脂)



寸 法	228.6mm × 6.09m
換気開口面積	264cm ² /m
有効天井面積	41.6m ² /m

■ 換気棟 (メタル)



● 取付け仕様

使用可能屋根勾配	15/100~10/100
使用可能地域	一般地域 (最大積雪量30mm 未満)
適 応 屋 根 材	平板瓦用 (本棟部に使用) ※隅棟部の使用は不可
野地板開口寸法	910タイプ : 40×800mm、1820タイプ : 40×1650mm

● 製品仕様

働き寸法	使用できる棟の長さ	有効換気面積	有効屋根面積 (天井面積の1/1600で計算)
910タイプ (製品寸法1110mm)	1110mm以上	160cm ² /本	25m ² /本
1820タイプ (製品寸法2020mm)	2020mm以上	330cm ² /本	52m ² /本

■ シングル釘



	25mm	45mm
使用部位	平部	棟部
入 数	550本/kg/箱	380本/kg/箱
使用本数	28本/m ² 標準仕様 43本/m ² 強風仕様	28本/m ²
1kg 当たり	約 19m ² /kg	約 13.7m ² /kg
	溶融亜鉛メッキ鉄釘	

■ 釘打ち機用シングル釘

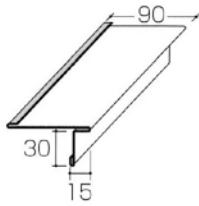


	32mm	45mm
使用部位	平部	棟部
入 数	120本/巻×30巻 3750本/箱	120本/巻×60巻 7200本/箱
使用本数	28本/m ² 標準仕様 43本/m ² 強風仕様	28本/m ²
1巻 当たり	4.4m ² /巻 標準仕様 2.9m ² /巻 強風仕様	4.3m ² /巻
	溶融亜鉛メッキ鉄釘	

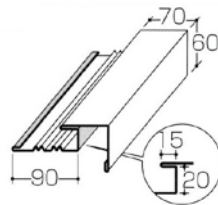
製品説明 現場調達品

水切り板金

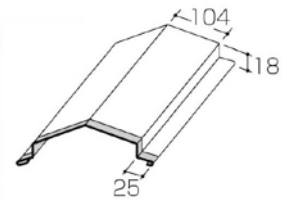
軒先唐草



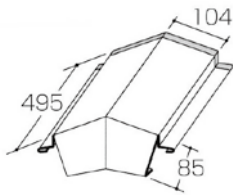
けらば水切り



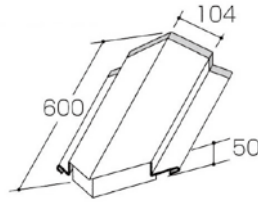
棟包



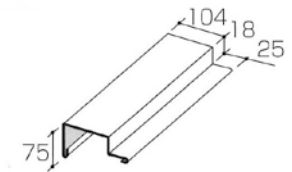
棟巴



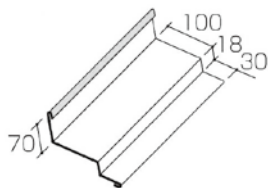
隅巴



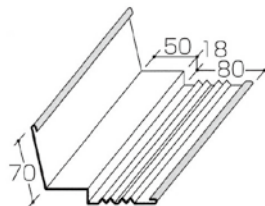
片棟



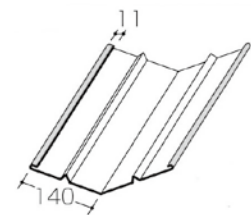
雨押さえ



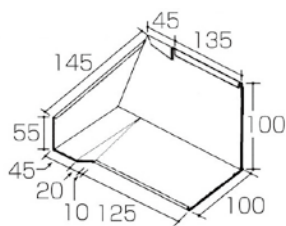
段付捨板



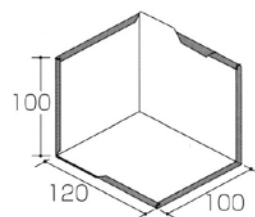
谷板(小)



壁止り(溝付き)



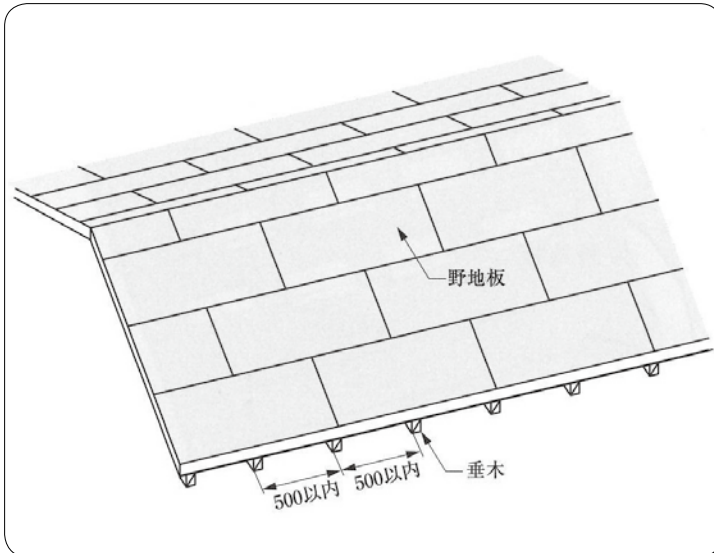
壁止



〈施工手順〉 施工手順に沿って説明しております。

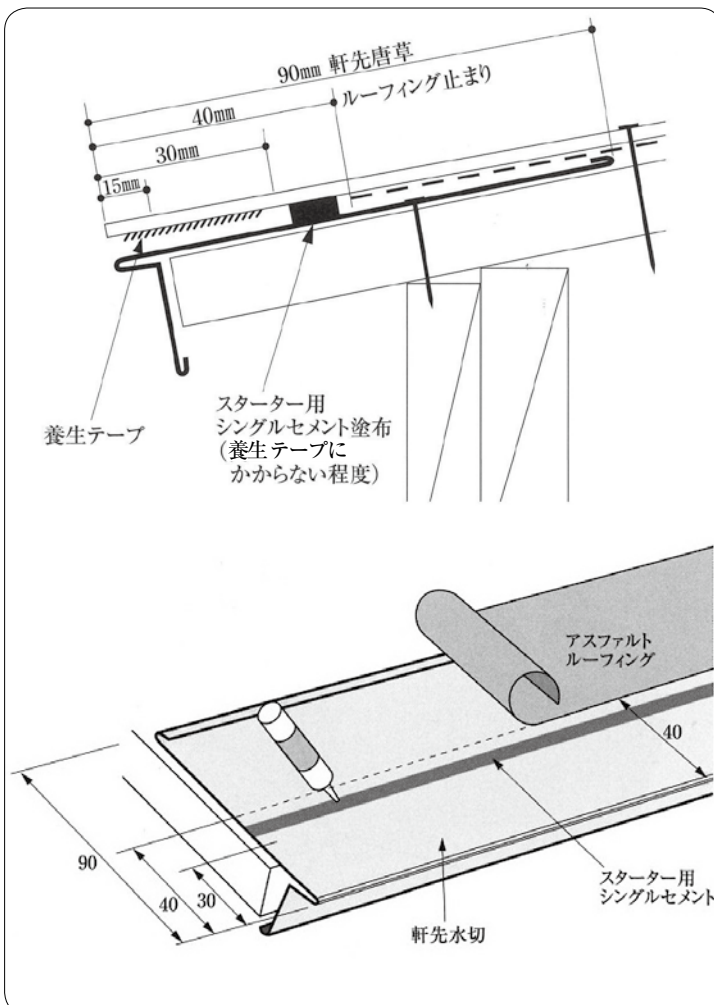
- 1 野地板の確認
- 2 軒先唐草の取り付け
- 3 下葺き材の施工
- 4 けらば部の施工
- 5 スターターの加工及び施工
- 6 シングル本体の施工
- 7 隅棟部、棟部の施工
- 8 谷部の納めと施工
- 9 壁取り合い部の施工
- 10 換気棟の種類と施工

1 野地板の確認



- ①垂木ピッチは500mm以内で施工してください。
- ②段差、不陸、たわみ、隙間が大きくないことを確認してください。
- 野地板は千鳥張りしてください。
- 合板は野地板固定用釘で300mm以内の間隔で垂木に固定してください。
- 野地板には厚さ12mm以上の合板または、OSBボードを使用してください。

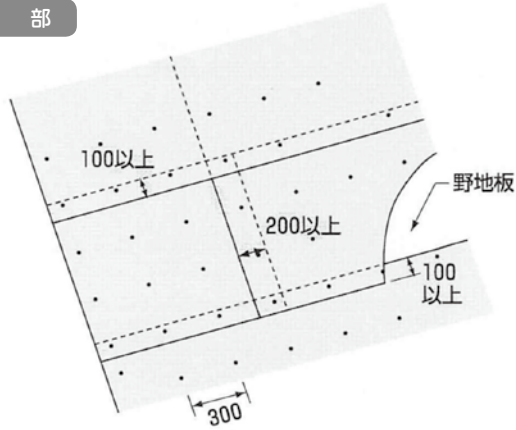
2 軒先唐草の取り付け



- ルーフィング施工前に軒先唐草を釘で固定してください。(釘の間隔は455mm以下で留めます)
- 釘頭にはシングルセメントを塗布してください。
- ルーフィングは軒先唐草の先端より40mm離して施工してください。
重ね幅は水平方向に100mm、垂直方向に200mmとしてください。
- 水切りのジョイント部の重なりは50mm以上とします。
- シングルスターターを軒先唐草に接着固定するためのシングルセメントを塗布する必要から、アスファルトルーフィングを軒先唐草の端より40mmひかえてください。

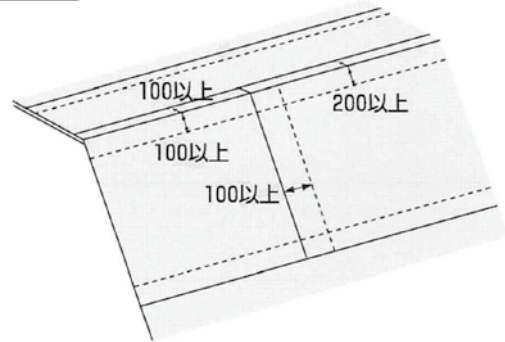
3 下葺き材の施工

平部



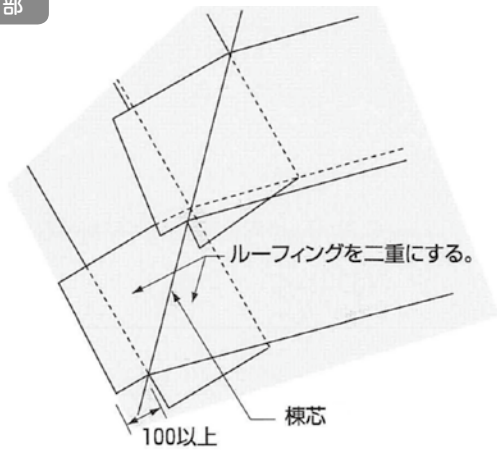
※平部の重ね幅は水平方向に100mm以上、垂直方向に200mm以上としてください。

平棟部



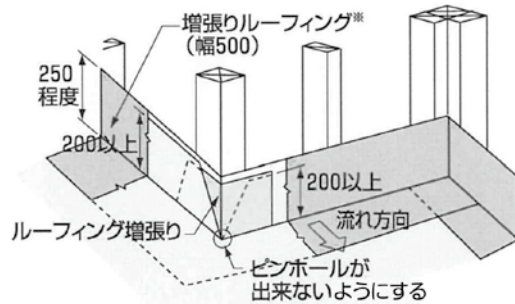
※平棟部の重ね幅は端部で水平方向に100mm以上、中央部で200mm以上としてください。また、垂直方向には100mm以上としてください。

隅棟部



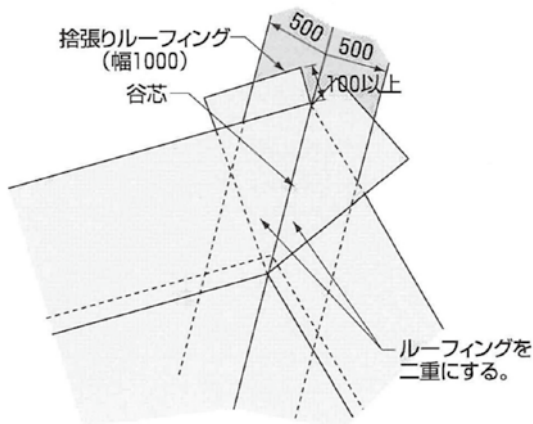
※隅棟部は必ずルーフィングを二重に重ねて施工してください。

壁取合い部



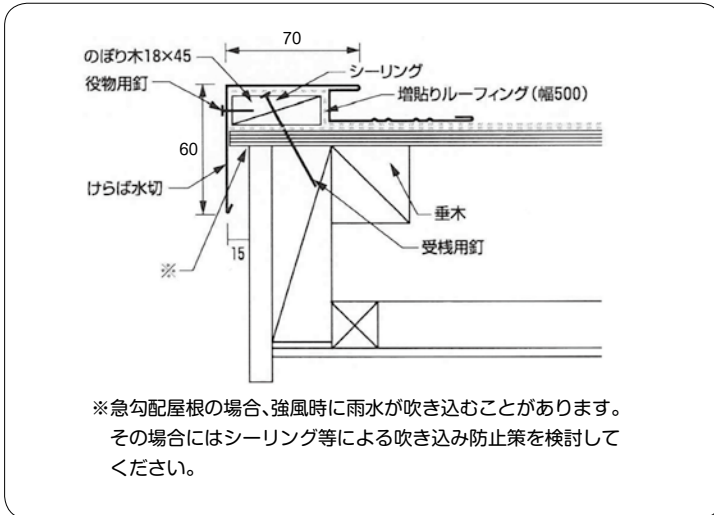
※壁面に面材がない場合は、壁取合い部全周にわたって、ルーフィング (幅500) を増張りしてください。壁面に面材がある場合は不要です。

谷部

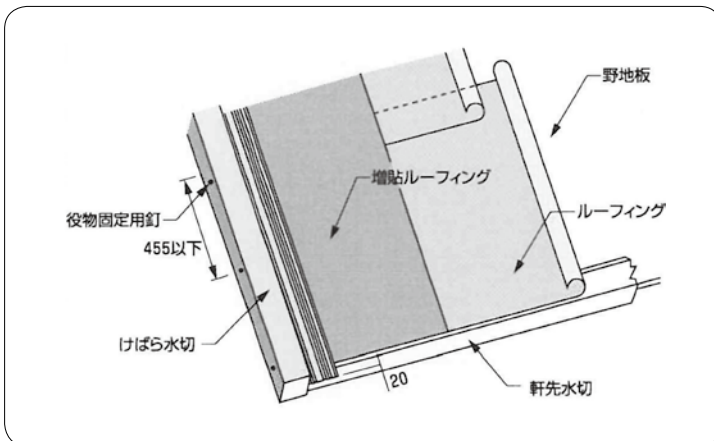


4 けらば部の施工

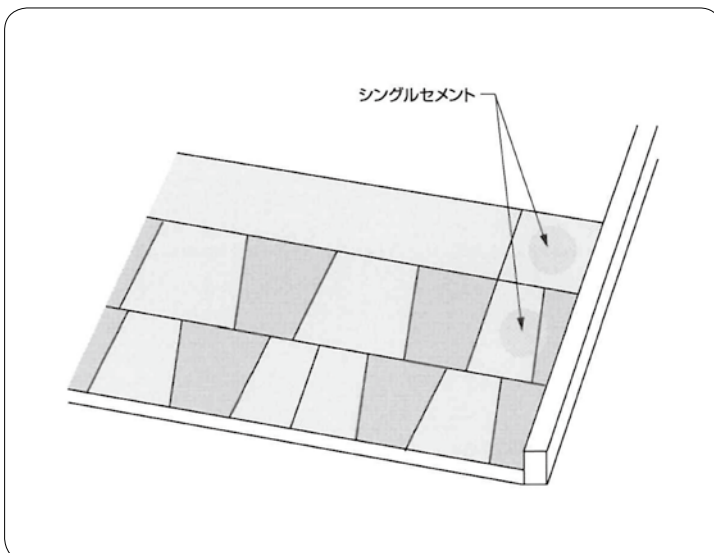
取付け順序：[軒先唐草] ⇨ [ルーフィング] ⇨ [けらば板金]



- のぼり木 (18mm×45mm) を受棧固定用釘を使って500mm以下の間隔で取り付けてください。
- ルーフィングを増し張りした後に、のぼり木にけらば水切りを取り付けてください。



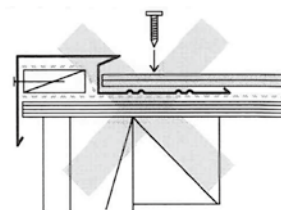
- けらば水切りは役物固定釘を使って横から455mm以下の間隔で、のぼり木に取り付けてください。



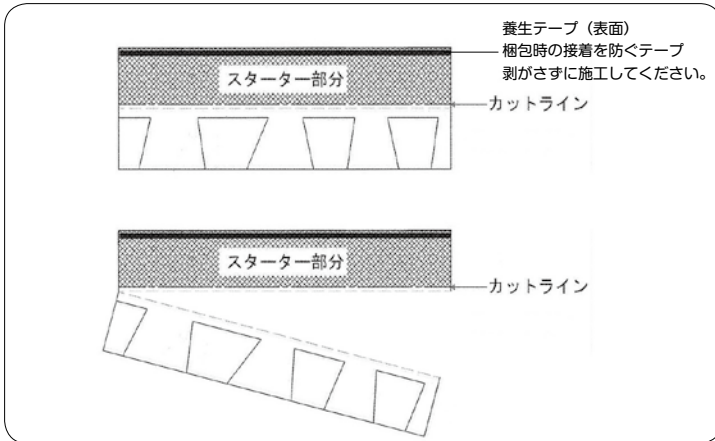
- けらば部分に小幅のシングルがきた場合、屋根釘と、シングルセメントを併用して固定します。但し、釘の打てない場合はシングルセメントにてしっかり固定してください。



● けらば水切の捨板部分には釘打ちしないでください。雨漏れの原因となります。

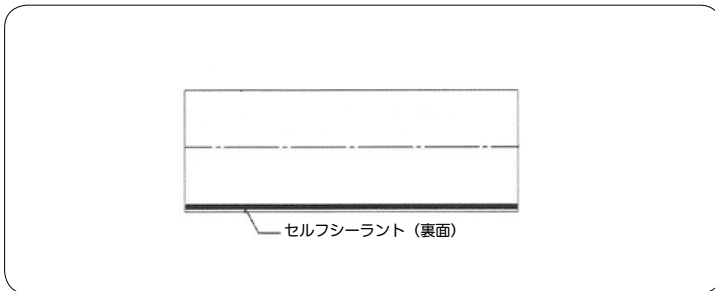


5 スターターの加工及び施工

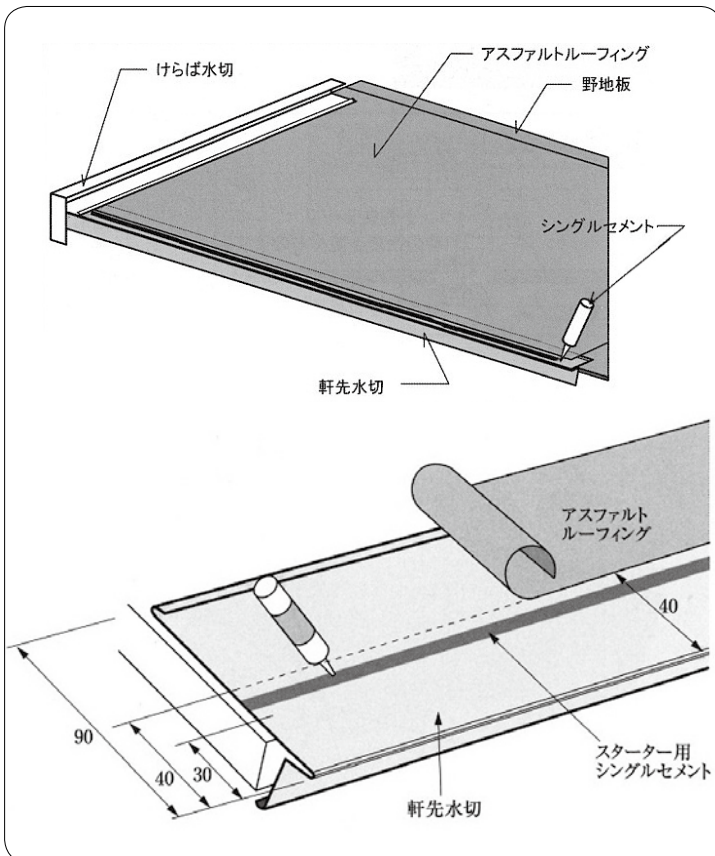


- スターターはシングル本体を裏返して、2層部分との継ぎ目に沿ってカットし、スターターとして使用してください。

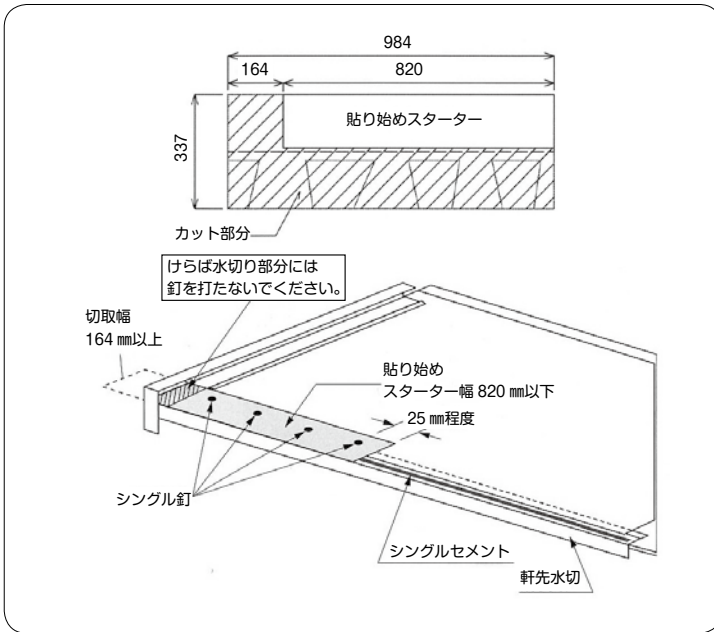
- シングル表面上部には養生テープがついています。養生テープは剥がさずに施工してください。



- シングル裏面下部にはセルフシーラントがついています。



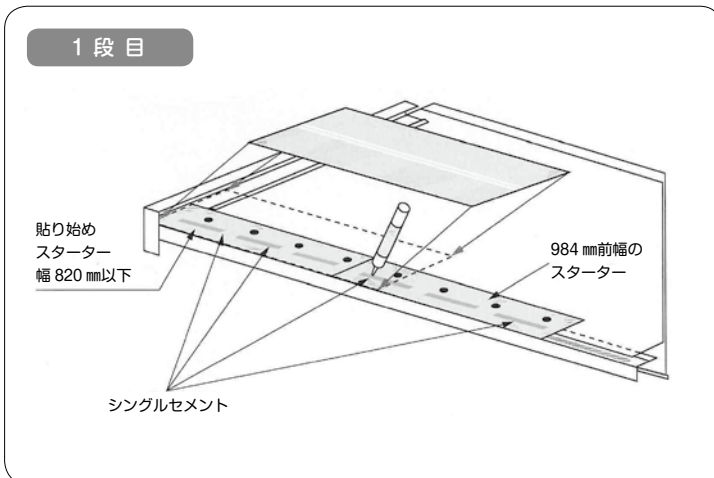
- 軒先板金 (水切り) にシングルセメント (5mm程度の径) を図のように塗布してください。



- スターターは幅を164mm以上カットし、820mm以下のスターターで貼り始めます。次のスターターよりフルサイズの984mmを使用します。軒先水切りより上部にシングル釘にて（4か所）留付けてください。

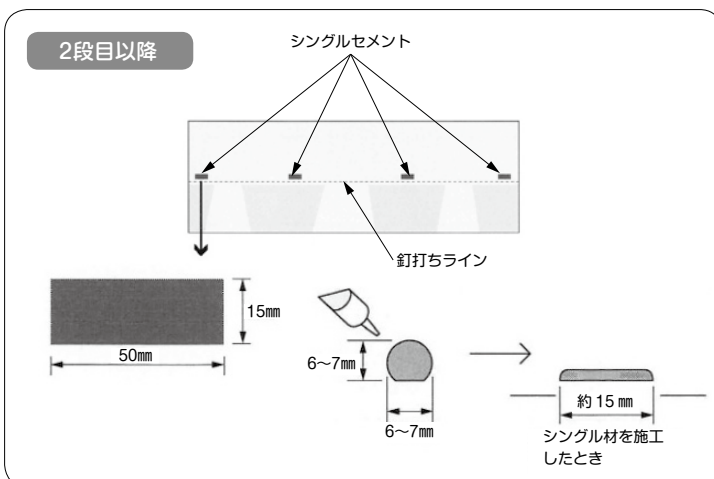
6 シングル本体の施工

1 段目



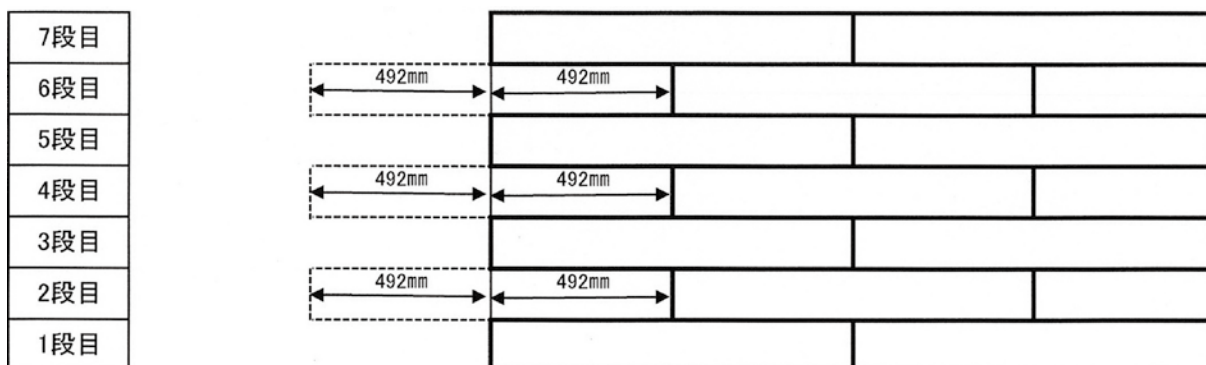
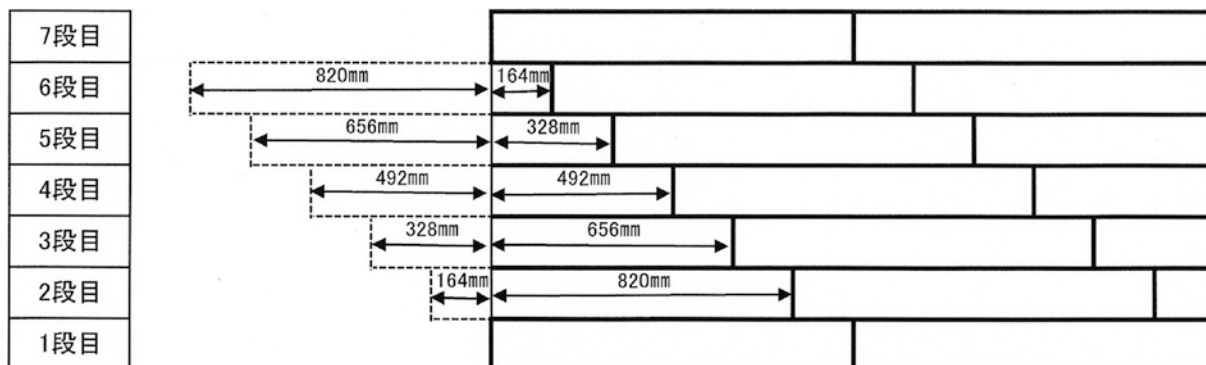
- 1段目はフルサイズ品で葺き始めます。スターター先端から30mm程度の位置にシングルセメントを50mm×15mmの幅で点付けし、スターター先端に合わせて釘で留付けてください。けらば水切りにかからないようにまた反対側の端部より25mm程度あけてシングル1枚につき4本の釘で留付けてください。（強風工法の場合は6本使用）

2段目以降



- 2段目以降は、シングル一枚に対して両端より25mm程度あけ、間に2本の釘（計4本の釘）で釘打ちラインに沿って留付け、釘の上部10mm程度の場所へ4か所（6か所）のシングルセメントを点付けにて施工していきます。

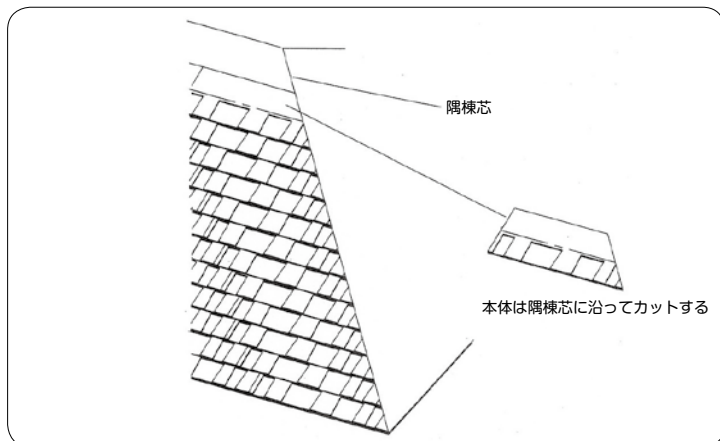
■ シングルの割り付け



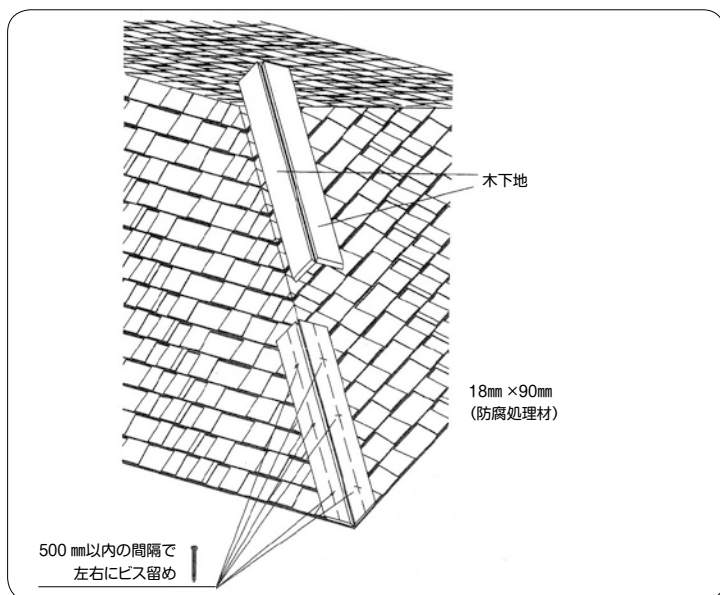
- 通常、アメリカの割り付けは上図が主流ですが、国内においては、下図の割り付けが主流です。どちらかを選択してください。

7 隅棟部、棟部の施工

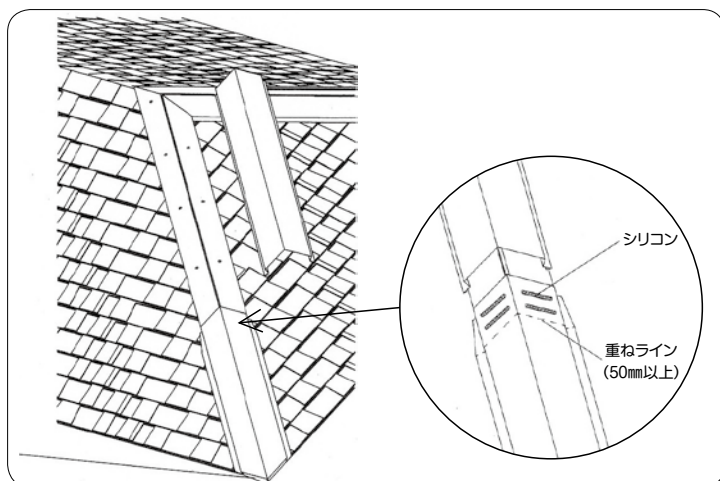
■ 棟板金使用



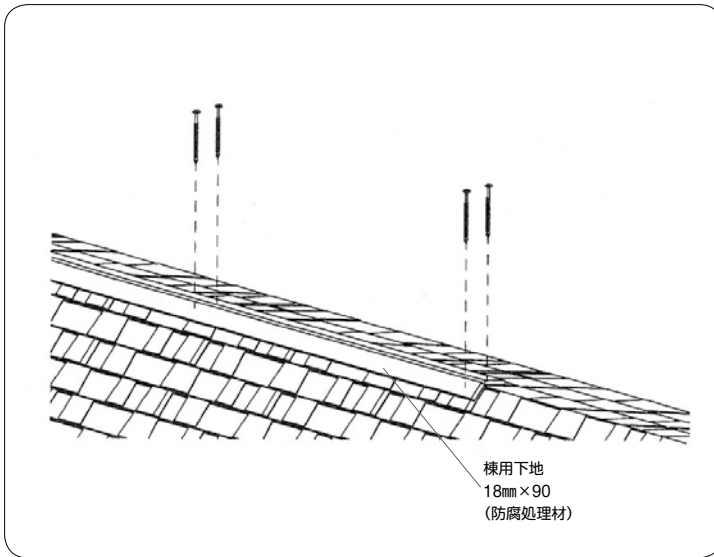
- 本体は隅棟芯に沿ってカットしてください。



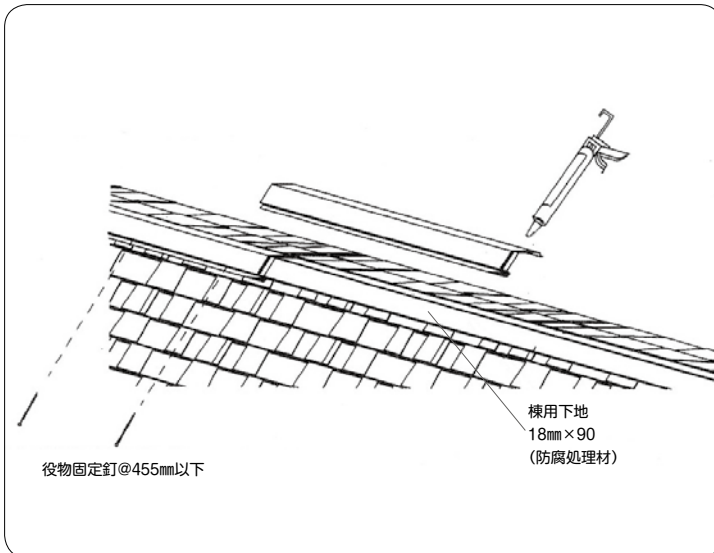
- 棟板金使用の場合は、笠木18×90（防腐処理材）を使用してください。
- 500ミリ以内の間隔で、左右にビス留めしてください。
- 笠木が防腐処理されていない木材の場合は、笠木の上にルーフィング（幅250mm～300mm程度）を被せてください。



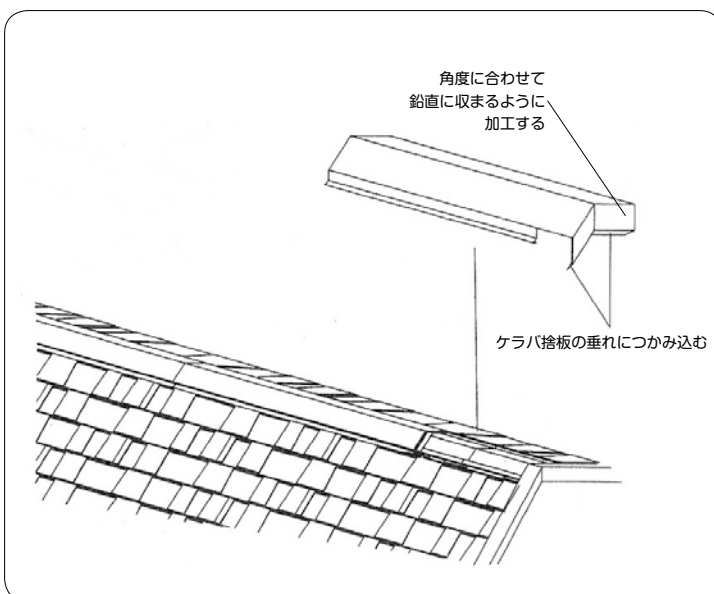
- 棟包は役物固定用釘を使って、455mm以下の間隔で両側から笠木に固定してください。
- 棟包のジョイントは50mm以上重ね、重なり部にシーリングをしてください。



- 本体は棟芯に沿ってカットしてください。
- 棟板金使用の場合は、笠木18×90 (防腐処理材) を使用してください。
- 500ミリ以内の間隔で、左右にビス留めしてください。
- 笠木が防腐処理されていない木材の場合は、笠木の上にルーフィング (幅250mm~300mm程度) を被せてください。

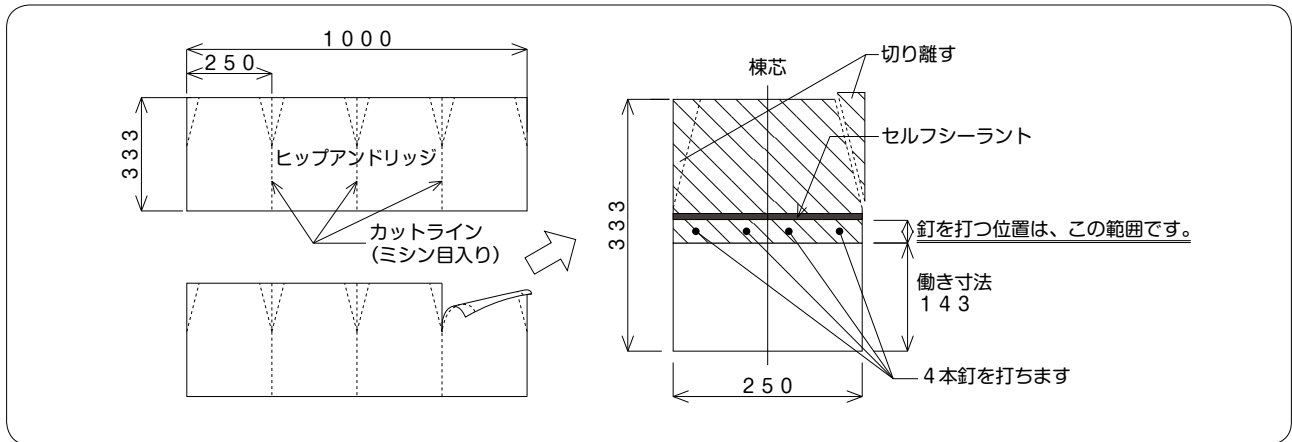


- 棟包は役物固定用釘を使って、455mm以下の間隔で両側から笠木に固定してください。
- 棟包のジョイントは50mm以上重ね、重なり部にシーリングをしてください。

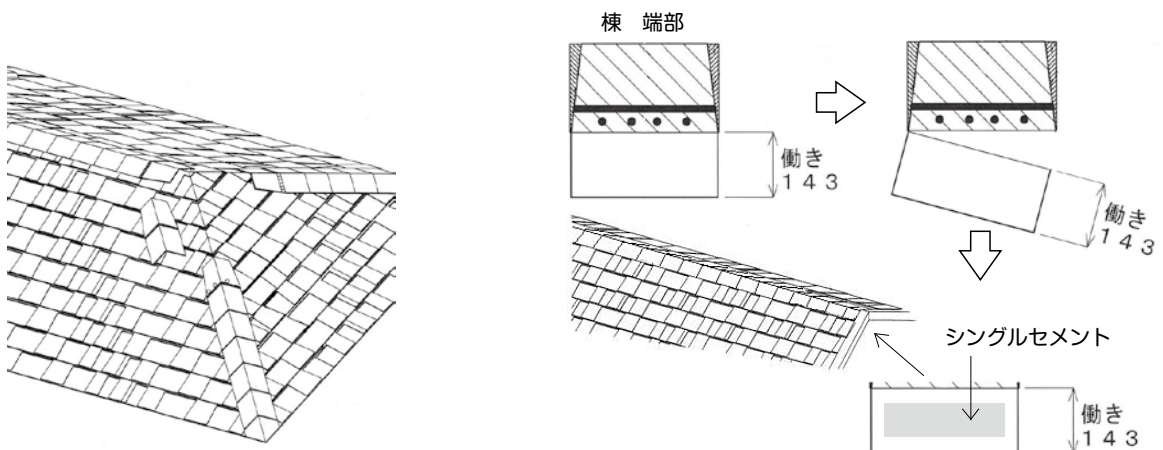
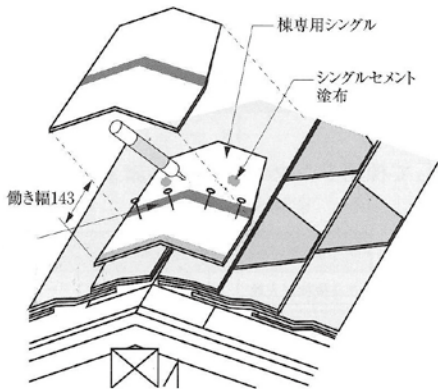
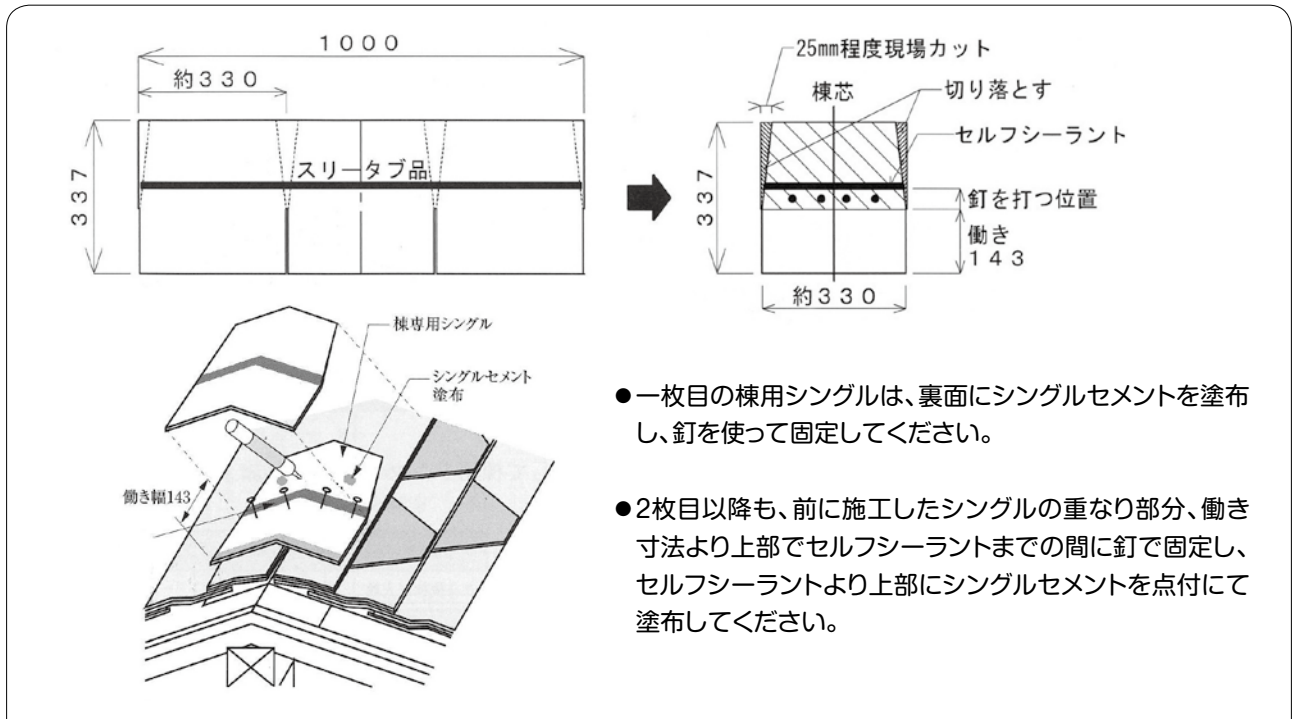


- 棟包端部では棟包板金を使用するか、棟包を折り曲げ加工し、けらば水切りにハゼをかませて納めてください。

■ 同質棟 (ヒップ&リッジ) 使用の場合

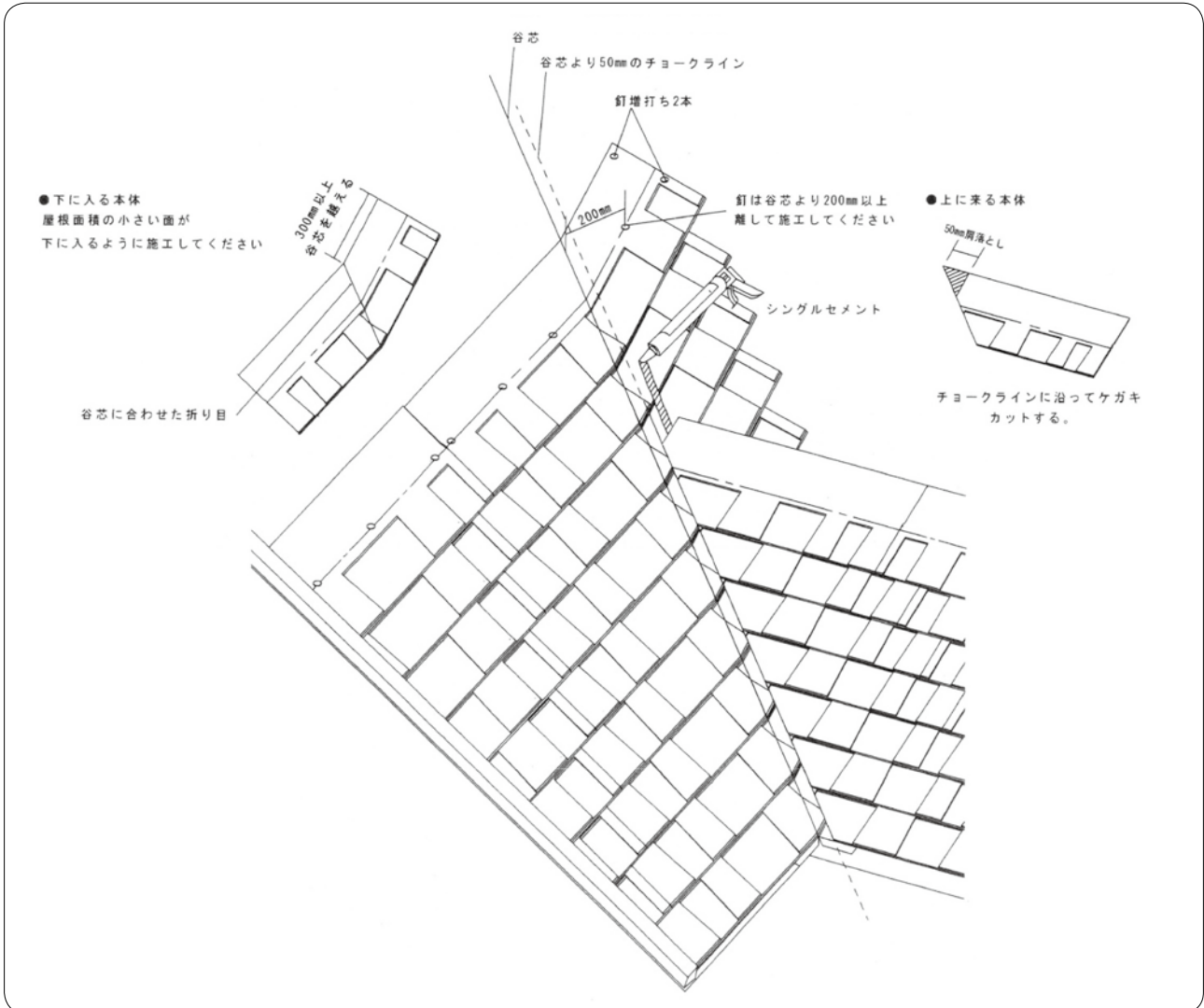


■ 同質棟 (本体) 使用 オークリッジプロ クラシック使用の場合



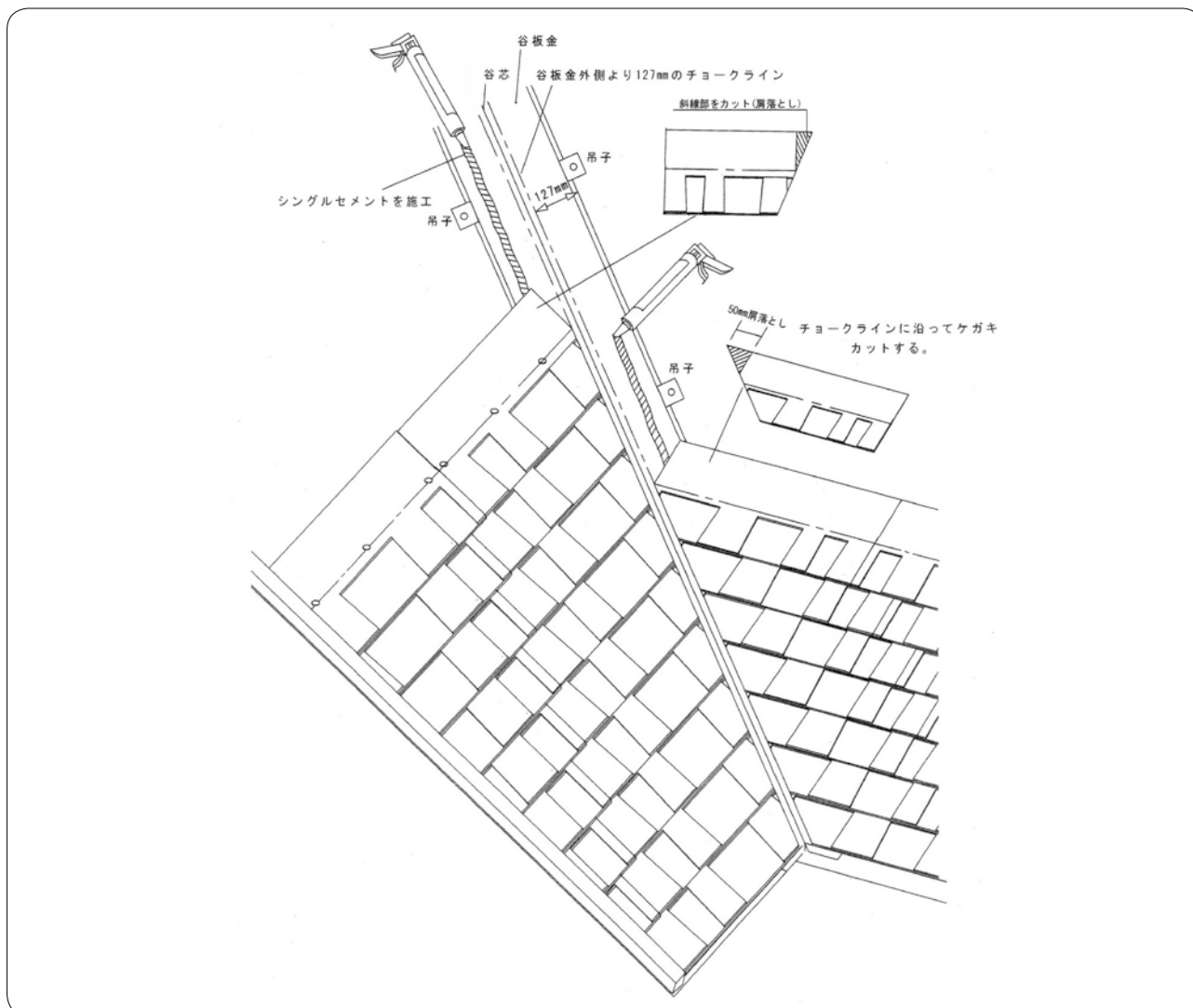
8 谷部の納めと施工

■ 同質谷 (シングル本体で施工)



- 屋根面積の少ない面、或は流長さの短い面より施工してください。
- 軒に沿って葺いたシングルが300mm以上、谷芯を越えるように施工してください。
300mm以上にならないときは、手前のシングルをカットしてフルサイズのシングルを使用してください。
- 張り上げたシングルの端部には、釘を2本増し打ちしてください。
- 釘は谷芯から両側へ200mm以内の場所には打たないように注意してください。
- 上にくる (反対面から貼る) シングルは、谷芯より50mm手前でカットし、墨出し線に沿って施工してください。
この時50mm程度の肩落としをしてください。
- シングル端部についてはシングルセメントで接着してください。

■ 谷板（鋼板仕上げ）



- 谷板板金外側より127mmの位置に墨出しをし、この隅に沿ってシングルをカットします。
- 釘は谷板金には打たないように注意してください。
- この時50mm程度の肩落としをしてください。
- シングル端部についてはシングルセメントで接着してください。

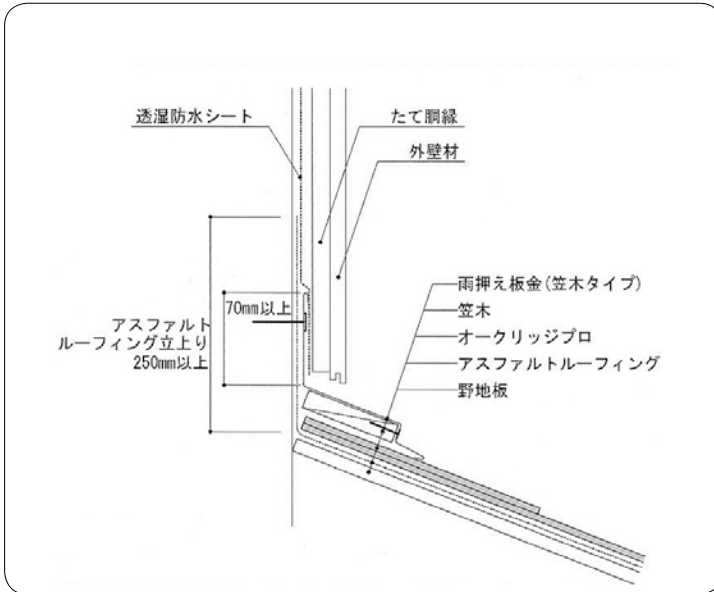
● 谷の長さ と 谷板板金の幅 について

一般住宅

谷の長さ	5m 未満	谷板幅	280mm程度
谷の長さ	5m 以上	谷板幅	420mm程度

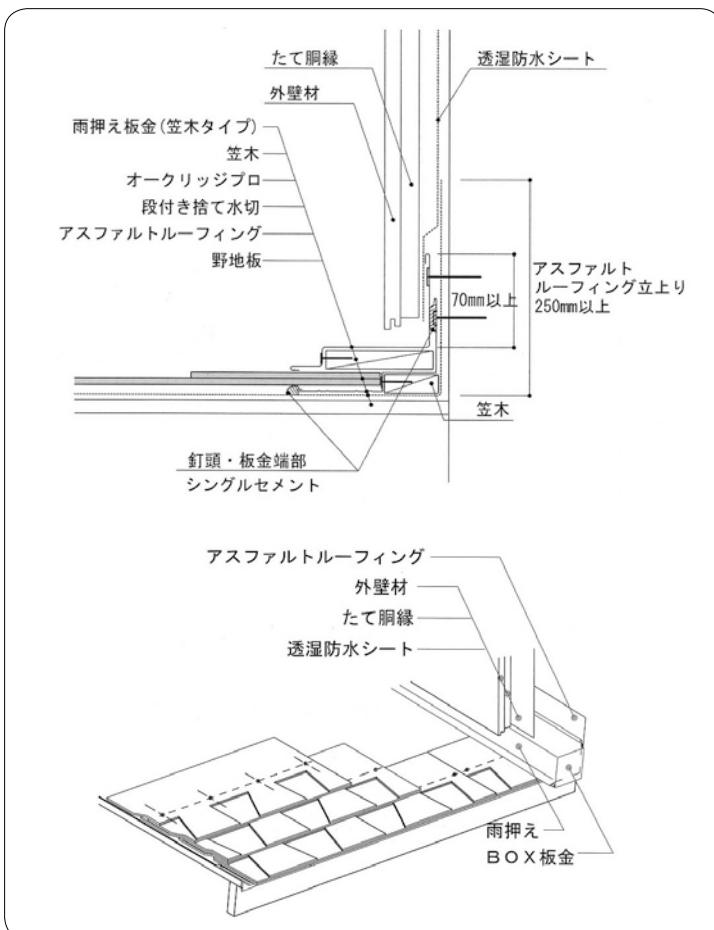
9 壁取り合い部の施工

■ 平行壁の施工



- シングル本体を壁際に立ち上げて施工しないでください。
- 壁際最上段にはスターターの加工時の化粧部分を使用します。
- 雨押さえを固定するために笠木(18mm×90mm)を取り付けます。笠木は500mm以下の間隔で垂木に固定してください。
- 雨押さえは役物固定釘で、横から455mm以下の間隔で笠木に固定してください。
- 雨押さえのジョイントは50mm以上重ねて、重なり部にシーリングをしてください。

■ 流れ壁の施工



- シングル本体を壁際に立ち上げて施工しないでください。
- 捨て板を固定するために受棧(18mm×45mm)を取り付けます。受棧は釘で500mm以下の間隔で固定してください。
- 捨て板は50mm以上重ねて施工します。この時捨て板水切りの立ち上り部分に役物固定釘で455mm以下の間隔で受棧に取り付けてください。
- 笠木(18mm×90mm)を捨て板水切りの段の部分に、500mm以下の間隔で取り付けてください。
- 雨押さえは役物固定釘で、横から455mm以下の間隔で笠木に固定してください。
- 雨押さえのジョイントは50mm以上重ねて、重なり部にシーリングをしてください。
- 棟違いの屋根や、下屋などで軒先と壁との取合い部分においては、壁止りの水切り(BOX板金)の使用をお勧めします。

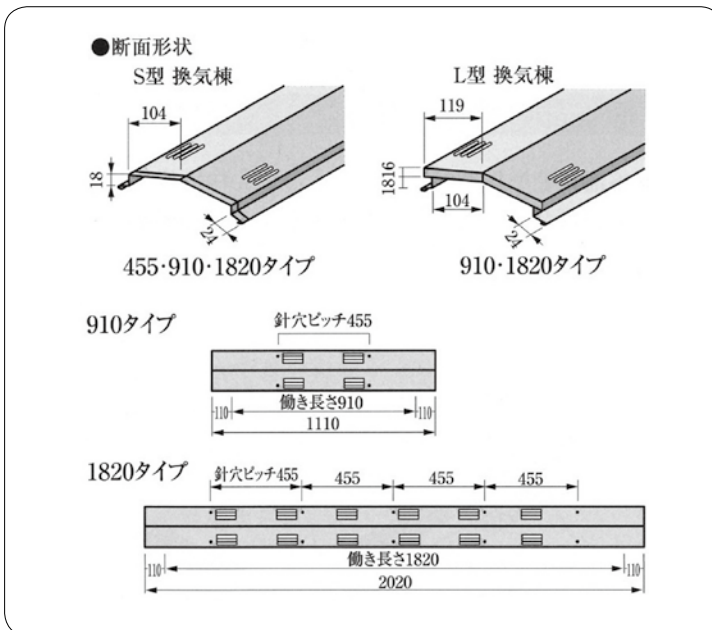
10 換気棟の種類と施工

■ 換気棟 鋼板製

使用可能屋根勾配	15/100~10/100
使用可能地域	一般地域(最大積雪量30mm未満)
適応屋根材	平板瓦用(本棟部に使用)※隅棟部の使用は不可
野地板開口寸法	910タイプ:40×800mm、1820タイプ:40×1650mm

働き寸法	使用できる棟の長さ	有効換気面積	有効屋根面積 (天井面積の1/1600で計算)
910タイプ (製品寸法1110mm)	1110mm以上	160cm ² /本	25m ² /本
1820タイプ (製品寸法2020mm)	2020mm以上	330cm ² /本	52m ² /本

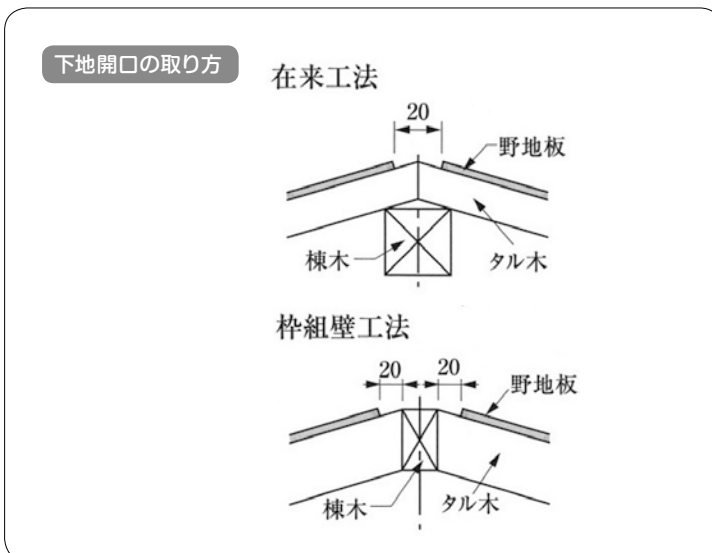
■ 形状寸法



換気棟板金仕上げ

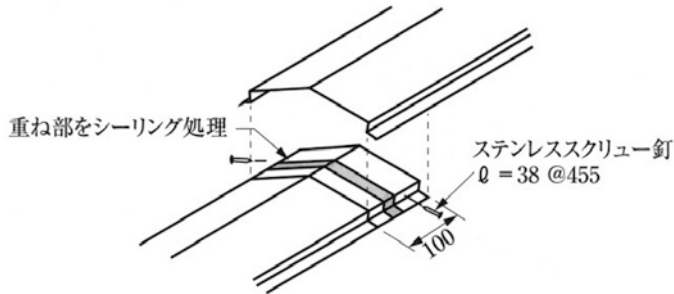
- ①野地板に排気用の開口部を40mmあけてください。
- ②メタル換気棟の両端には、棟端部の加工・取合いのための棟包が取付くので、両端に150mm程度づつの余裕寸法が必要です。

■ 施工方法



- 笠木を止める時は、瓦の割れ防止のため、あらかじめドリル(φ4)にて先穴をあけてから釘打ちしてください。
防水パッキン(本体裏側)と笠木の間に隙間が発生するおそれがあるので、防水のためシーリング処理してください。

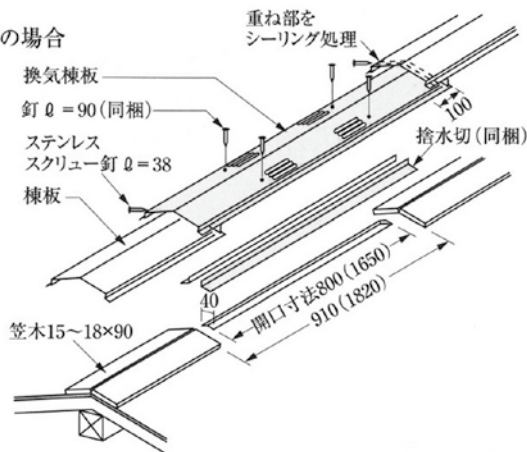
棟板との嵌合



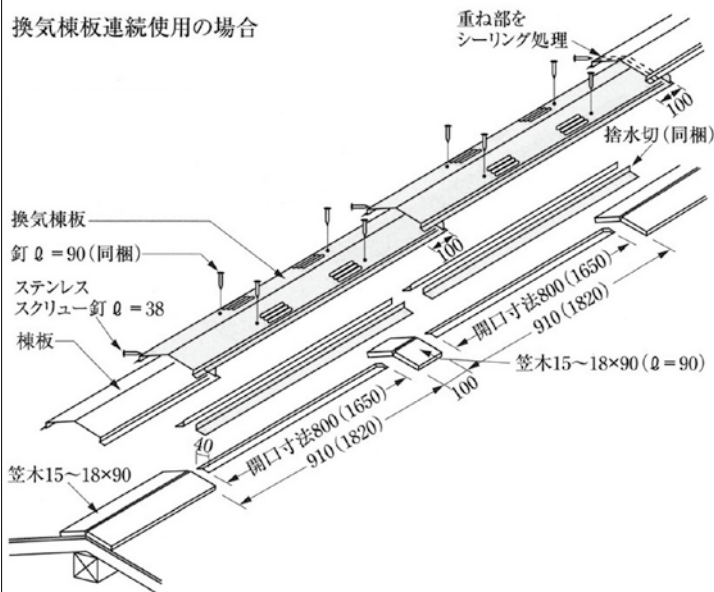
- 嵌合部は必ず釘固定（耐風圧性確保）および、シーリング処理（防水性確保）をしてください。市販棟板を切断加工する場合には、換気棟板との嵌合側は避けてください。（水返し部分を切断した状態では、嵌合性が悪くなります。）

本体の施工

換気棟板1枚使用の場合

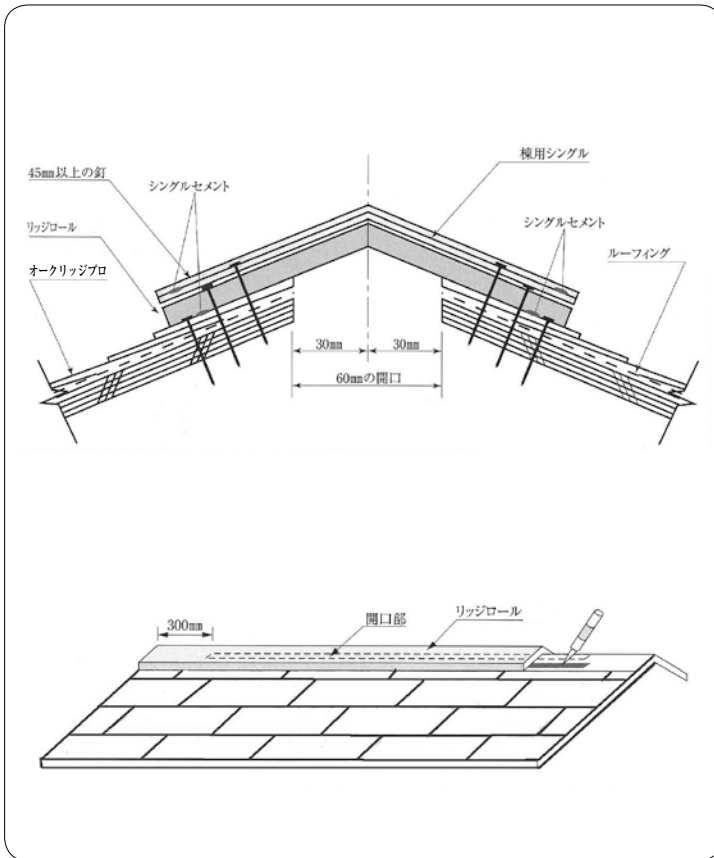


換気棟板連続使用の場合

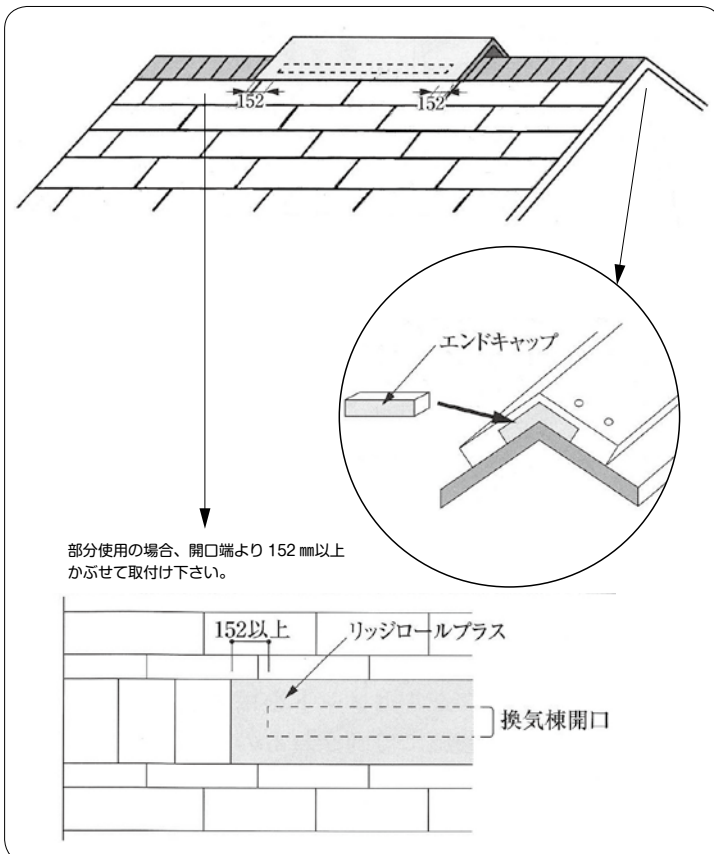


- 換気棟板固定釘（φ=90）を打つ時は、瓦の割れ防止のため、あらかじめドリル（φ3.5）にて先穴をあけてから釘打ちしてください。

■ 換気棟 (リッジロール)



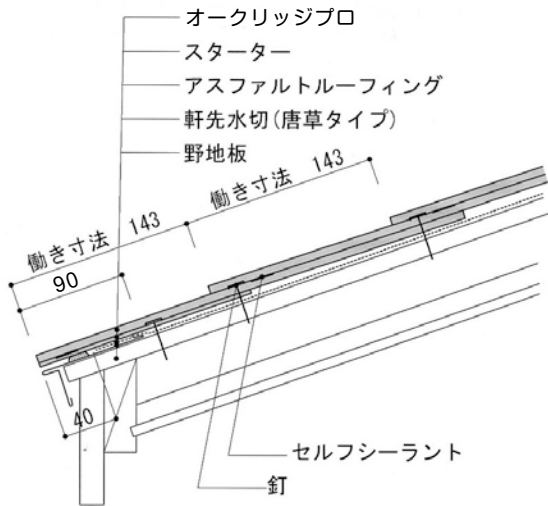
- 棟部の開口を棟芯より両側へ各30mm開けます。開口端部からは、152mm以上かぶせて施工してください。
- 開口時は棟の端部より、300mm以上離して開口してください。
- リッジロール取り付け前にシングルとの間に隙間が出来ないようにシングルセメントにて接着し、45mm以上の釘で固定してください。



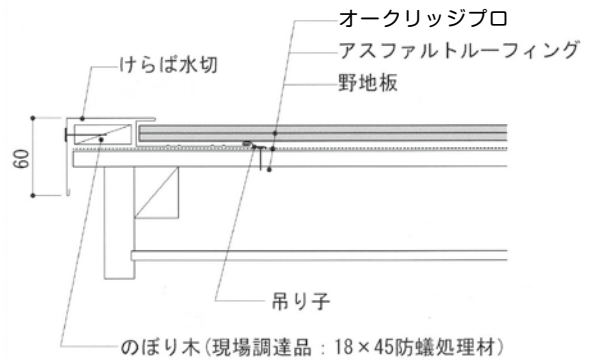
- リッジロールのメートル当たりの有効換気面積は264.6cm²/mです。リッジロール1m当たり天井面積 約41.6m²/mの換気能力です。

■ 各部納まり

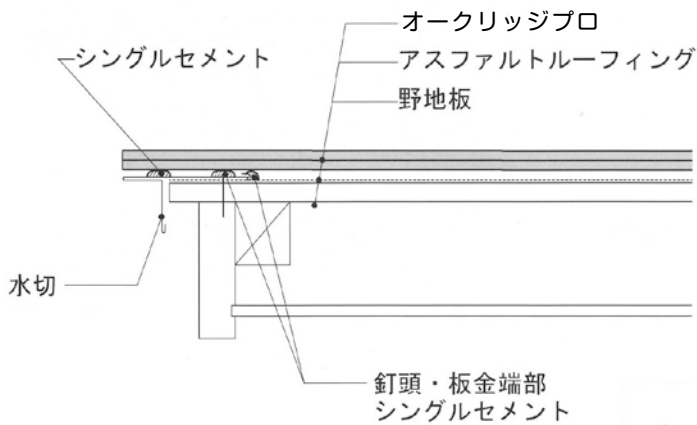
軒先唐草



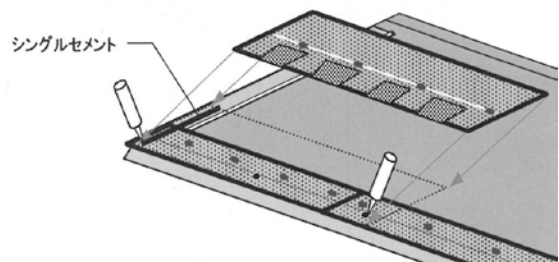
けらば水切り



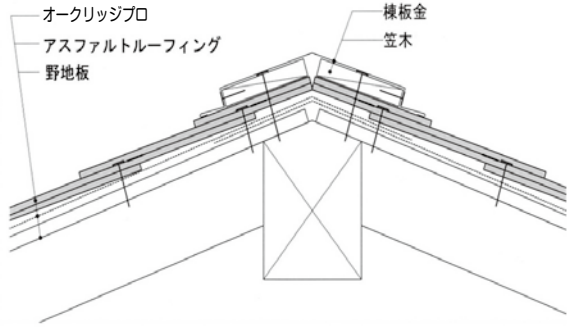
けらば同質仕上げ



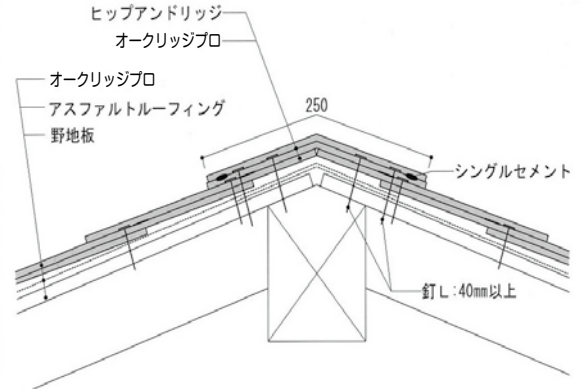
※オークリッジプロ端部を
しっかり接着してください。



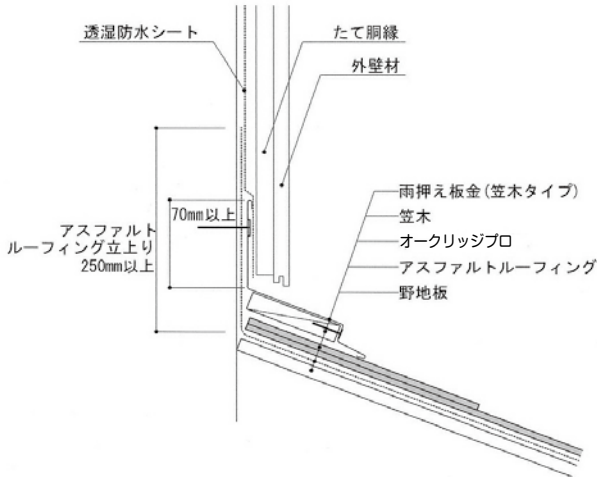
棟、隅棟（鋼板仕様）



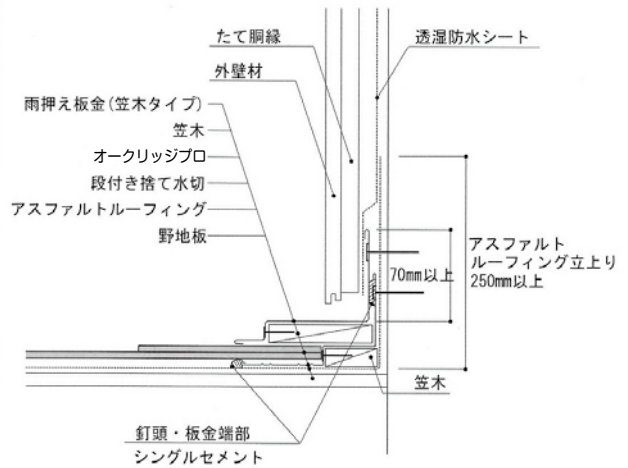
棟、隅棟（同質仕様）



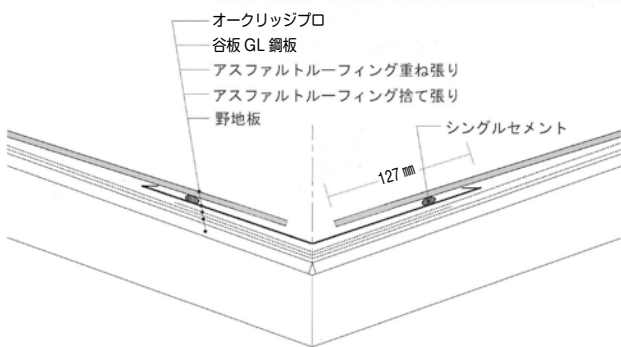
平行壁



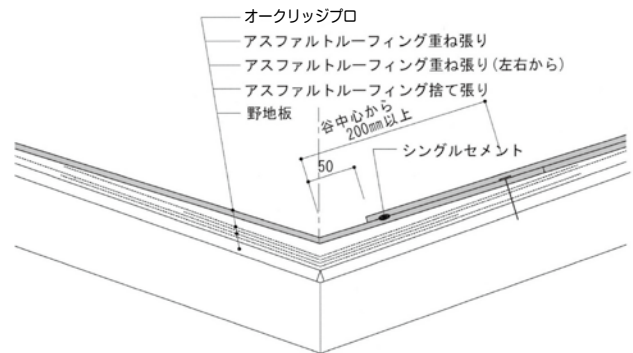
流れ壁



谷板金仕様



同質谷仕様



※壁際に立ち上げて施工は出来ません。

■ 耐風基準

〈一般低層住宅〉 3階建て以下の一般住宅
建物高さ12m以下の建物

建物高さ	基準風速 Vo(m/s)									
	30	32	34	36	38	40	42	44	46	沖縄
12 m以下	標準工法					周辺部補強				全面補強

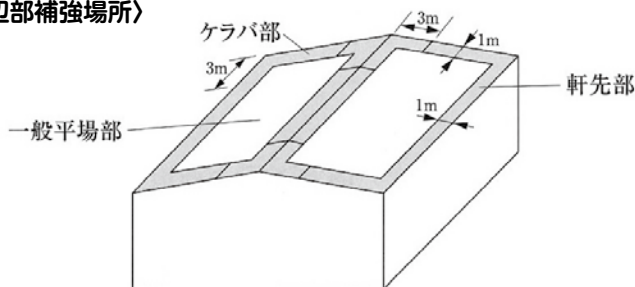
〈強風場所〉

- ・ 傾斜の強い場所
- ・ 谷あいなど風道になる場所
- ・ 風よけの無い広い場所
- ・ 海岸、湖岸から近い場所（200m程度の目安）

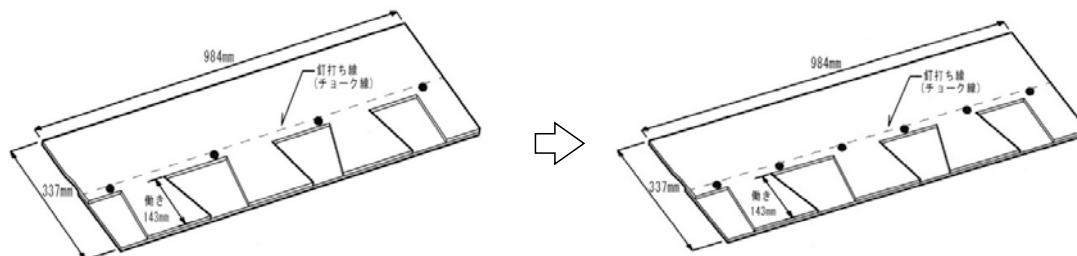
上記のような強風場所の目安となるようなところでは、標準工法の風速範囲であっても、周辺部の補強を行ってください。

〈補強方法〉 通常4本の釘打ちを、6本に増し打ちしてください。
シングルセメントの塗布を増量させてください。

〈周辺部補強場所〉



軒先部 1.0m (シングル 働き143mm×7段)
ケラバ部 1.0m (シングル 1000mm幅 1枚分)
棟端部 3.0m (棟シングル 働き143mm×21枚分)



〈基準風速40m/s以上の地域〉

地域	市町村	基準風速 Vo(m/s)
東京都	八丈島 青ヶ島村 小笠原村	42
高知県	室戸市 東洋町 奈半利村 田野町 安田町 北川村	40
鹿児島県	枕崎市 指宿市 加世田市 西之表市 揖宿郡 川辺郡 金峰町 里村 上甑村 下甑村 鹿島村 根占村 田代町 佐多町	40
	中種子町 南種子町	42
	三島村 上屋久町 屋久町	44
	名瀬市 十島村 大島郡	46
沖縄県	全域	46

■ 積雪地域

おおむね年間平均最深積雪量が30~100cmの地域
氷堤によるスガモレ対策として、下張材を片面粘着層付ゴムアスルーフィングにて施工してください。



(株)BMIデザイン